

地理空間情報セミナー

最新の測量技術学ぶ

日測協道支部が帯広で

【帯広発】日本測量協会 北海道支部（橋本幸支部長）は22日、帯広市内の帯

パンスセミナープログラムを開催した。写真。24人が参加。参加者は講義を通して最新の測量技術動向など知識の習得や技術力の向上を図った。

同協会測量技術教育部の桑原毅次長があいさつ。新技術の導入など業界の動向のほか、セミナーの概要に触れ「あすからの業務にどう生かせるか、ヒントを持ち帰ってほしい」と呼びかけた。

引き続き、桑原次長が測量業界を取り巻く動向と測量技術講習等の概要について

て説明。測量登録業者数の推移や担い手確保に向けた測量法の改正内容、準天頂衛星みちびきの今後の運用状況などを紹介した。

また、本年度末に閣議決定予定の次期地理空間情報活用推進基本計画（第5期）については、ジオAIや電子国土情報の4次元化、国際展開・国際協力、防災への活用などがキーワードとなることに触れ「測量は、単に地図を作るのではなく、社会課題を解決し経済成長を支えるデジタル公共インフラへと進化

する」と話した。

このあと、同協会の白井直樹常任参与が地理空間情報技術の動向や技術提案書作成に向けた取組方法など、同協会北海道支部の小枝登技術センター長が公共測量成果の品質確保についてそれぞれ説明した。

